

第8回西谷地区学校づくり検討委員会

会議概要

開催日時	令和7年(2025年)5月19日(月) 15:30~17:05
開催場所	西谷小学校2階 多目的室
出席者	【委員】17名(欠席)1名 【教育委員会事務局】 (管理部)6名
次第・議事	1 開会 2 委員・事務局紹介、西谷地区学校づくり検討委員会設置要綱の確認 3 会議の成立及び公開について 4 報告事項 (1) 西谷地区の園児児童生徒数について (2) 西谷小・中学校の取組について 5 議題 (1) 特認校制度先進事例視察結果と西谷地区における今後の方向性について (2) 令和8年度募集スケジュール(案) (3) その他 6 閉会
会議の主な結果	少人数の良さを生かしながらも、SNS や「24谷の日」を新設するなどして広くアピールしていく。学校・行政・地域が一体となり、移住促進も合わせて、子ども自身の「行きたい」気持ちを第一に、体験型の見学等、臨機応変に柔軟に対応していく。
会議録(概要)	
事務局	<p>【1 開会】</p> <p>【2 委員・事務局紹介、西谷地区学校づくり検討委員会設置要綱の確認】</p> <p>～委員紹介～</p> <p>初めてこの会議に出席される方もいらっしゃるため、設置要綱を確認させていただく。</p> <p>2ページ、資料2</p> <p>西谷地区のより良い教育環境及び教育内容について、地域や保護者が主体となり、諸課題の整理や具体的な方策の検討を行うために設置された組織である。本委員会で検討していただいた内容については、地域としての意見として取りまとめられ、意見書という形で教育委員会に提出していただく。教育委員会の決定機関としては、教育委員で構成する教育委員会の会議があり、本委員会は、地域としての意見を教育委員会に提言するという立ち位置である。</p> <p>前回の検討委員会において、「特認校制度の募集の対象が、現在(令和7年度)は小学校1年生とその兄弟と中学生に限定しているが、令和8年度から全学年に広げるにあたり、制度の成果や課題を検討するため、もうしばらく、本委員会での議論を望む」との声があったため、今年度も引き続き開催させていただく。学校運営協議会の議論に移行するまでの間、引き続きご協力をお願いする。</p>

事務局	<p>今年度も引き続き委員長と副委員長をお引き受けいただいた。会の進行等、たくさんのご負担をおかけするが、無理言って、もうあと少しだけということでお引き受けいただき、感謝する。ではここからの進行を委員長に願います。</p>
委員長	<p>【3 会議の成立及び公開について】</p> <p>それでは、ただいまから、この委員会を開催させていただく。</p> <p>本会議は、委員の過半数の出席により成立する。本日、18人中16人の委員に出席（1名は遅れての出席）いただいております、会議が成立していることをご報告する。</p> <p>本日の議事等において、個人情報等に関する事項がないため公開とする。</p> <p>本日は傍聴される方は、おられない。</p> <p>それでは、資料に沿って進める。議事4の報告事項について事務局に願います。</p>
事務局	<p>【4 報告事項】</p> <p>(1) 西谷地区の園児児童生徒数について</p> <p>4ページ、資料3</p> <p>～資料に沿って説明～</p> <p>(1) 令和7年5月1日現在 校園在籍数</p> <p>(2) 過去10年間(5月1日時点)の在籍数</p> <p>(3) 令和7年5月1日現在の西谷地区学齢人口</p> <p>(4) 令和8年度の西谷小学校在籍見込</p> <p>学年をスライドさせた予測は1・2年生で7人、3・4年生で9人、5・6年生9人で、今のところ、令和8年度も完全複式学級の見込となる。</p>
委員長	<p>春から特認校制度がスタートしている。学校から少し子どもたちの様子等を報告いただきたい。</p>
委員	<p>本年度の新入学は3人である。1人は、西谷地区から西谷認定こども園を経て、上がってきた子であり、あと2人は地域外で西谷認定こども園を経てきていないため、1年生の3人は、みんな「はじめまして」である。これまでの関係がない中で、1つ1つ、これから人間関係を紡いでいくことになる。</p> <p>まず、3人ともが学校を休まずに来ている。もうこれが何よりかなと思う。</p> <p>同じ保育園に行っていた子は誰もいない中で、朝、親と離れがたく、当初は少し泣いたりするシーンがあったが、「頑張っていてらっしゃい」と言われたあとはスイッチが入るのか、一旦学校に入ってしまうと、何か楽しいことがいろいろあるからか、とても楽しんで学校で過ごしてもらっていると思う。</p> <p>複式なので、2年生の子が同じ教室で過ごすことが多い。3者3様の子どもたちに、2年生の子が一生懸命に「西谷ってこんな所」ということを手足取りながら教えてくれている。</p> <p>今ちょうど運動会の練習が始まった。1年から4年までが一緒に表現のダンスをす</p>

委員	<p>で子どもたちが当たり前のように学んでいることが、実はとても大事なことなのだという ことを感じながら育っていけるよう、これからも努めていきたい。</p> <p>また、小規模なので小回りが利くため、いろいろなことをやっていきたい。今年は修学 旅行に5人で行く。他校ではできないようなことを何かできたらいいなと思っているとこ ろである。</p> <p>中学校の様子をお伝えさせていただく。中学校は義務教育の最後ということで、その あとの進路に絡んでくる。自分の学びたいこととかやりたいことが、もし早く見つかるの であれば、それに繋がるような進路も考えられる。そういった教育活動を日々展開して いる。</p> <p>ご準備いただいた資料4(6ページ)から話をさせていただく。</p> <p>講演会を進路に結びつけて、去年はミュージシャンのBOROさんに来ていただいた。 今年の7月は元 ANA 機長の山形和行さんに来ていただく。その方の生き方を通して、 子どもたちが何か学び、感じる事ができればと思う。</p> <p>なお、こういった講演も、中学生だけでなく、小学生も、もしよろしければ保護者・地域 の皆さん、どなたでも来ていただいたらと思う。そういった形で一緒に学びの機会場の を設けるというのは、多分大規模校では簡単にはできないことだと思う。</p> <p>他にもいろいろな行事の進み方を見ながら、今年度も子どもたちの夢や将来の目標 を見つけることに繋がるような企画をしていきたい。</p> <p>次に生徒会のスローガンについて。昨年度は「一人ひとりが活躍できる西谷中学 校」、今年は「唯一無二。我らが日本一」。教師がこうしなさいと言ったわけではなく生 徒から出た。この中に表れているのは、小規模校だけれどもそれを逆手にとると、一人 ひとりが主役になるということ。普段の活動、生活の中でも、必ず何かの係にあたり たり、生徒会や委員会の仕事でも何かの行事でも出番がたくさんある。そういったところ で、子どもたちの主体性や自己有用感を高められるように、声かけやサポートをしてい けたらと考えている。</p> <p>また、地域の方から提案いただいている内容を教育課程の中にもできるだけ取り込 んでいきたい。</p> <p>例えば、「日本の食文化を大事にしよう」と家庭科の教科書にも出ており、生きた教 材として西谷の100年フードというちまきづくりを取り入れたり、田植えを新たにご提案 いただき、里山ラボ・自然の家の皆さんにお世話になって、先週、泥んこの中で石をどけ たりとか棒引きをやったりとか、土に触れるそういう体験と飯盒炊飯をさせていただい た。5月末に田植え、最終的には稲刈りまで。</p> <p>また、作業だけでなく事前に西谷や米のことについても調べた。質疑応答の時間に、 次々と生徒たちから質問が出たので私も驚いた。例えば、「なぜ田植えにかかるそうい う大変な作業を頑張れるんですか。」とか。「どんなところで苦勞されるんですか」とか。 「ご先祖から引き継いだ農地を大事にしたい」など、いろいろな話を聞くことができた。</p> <p>それから、卒業生が関わっていたアサギマダラという蝶の羽化の取組。フシバカマと いう植物の芽が出た。卒業生も喜んでくれるかなと思う。秋ぐらいに咲くらしいので、卒 業生が中学校に集まって近況報告をし合い、心の拠り所にもなればいいかなと思う。</p>
----	--

委員	<p>また、県立北条高校の元校長先生を招き、小規模校である当校の様子を見ていただいた上で、高校（探究）にどのようにつなぐか、子どもたちの主体性、学ぶ意欲をどう高めたらいいのかなど、アドバイスをもらい、我々教師も切磋琢磨していきたいと考えている。</p> <p>最後に、地域の人材を生かしながらということで、地域コーディネーターの方をはじめ、卒業生の保護者の皆さん、在校生の保護者の皆さんに協力していただいて、学習会「自習室」を年13回企画している。卒業生の大学生が来て勉強を見てくれた。塾ではないが、勉強の機運を高められたらと思う。</p> <p>今後また、学校だより、ホームページ、この後出てくるインスタグラム等で、情報発信をしていけたらと思っている。</p> <p>今、小学校と中学校の取組をお話した。</p> <p>皆さんもよくご存じの通り、こども園と小学校と中学校がこんなに近いところにあっ、いろいろなことを連携したり、交流したりしている学校というのは市内にここしかない。幼と小、小と中、幼と中の交流はあっても、3つでの交流は、ここだけの特徴というか、良さである。</p> <p>園小中の連携、交流、みんながお互いの名前と顔を知っているという良さを、昨年の特認校で見学に来られたご家庭にも話をさせていただいた。就学に至らなくとも、「非常に来たかったんだけど」と言われたご家庭もあったので、この3つの連携、他校になところを大事にしていきたいと考えている。</p>
委員長	<p>小・中学校の校長先生から熱い現場の報告、特色ある学校づくりに先頭切って取り組んでいただいている姿をご説明いただいた。</p> <p>質問、意見等、なんでも発言いただけたらと思う。</p>
委員	<p>牡丹園で働いており、3・4年生が来たときに、みんなの目をキラキラさせている様子を見ることができて、親としてすごくありがたかった。</p> <p>地域のボランティアの方が、文字を書ける葉っぱのこと、それが「葉書」の由来であるなど、親が教えられないこと、学校も教えないことを人生の先輩として教え、関わってくれていて、地域の人と一緒に育てるのが西谷だなど、見ていてすごく思った。</p> <p>わが子がよく「明日学校休みたくないから早く寝ないと」か、「風邪を早く直さない」と言う。毎日行きたがり、「休みたい」とは決して言わない。いろいろな校外学習が多いからなのか、子どもにとっては遊びながら学んでいるというのがあるのかもしれない。</p> <p>中学生になると勉強が急に難しくなり、上の子は「学校に行きたくないな」と言ったりもした。でも、修学旅行の写真など、その都度先生が送ってくださる写真を見て、子どもたちが楽しんでいる様子を見せてもらい、安心して任せられた。人数が少ないから、写真にたくさん写っている。それも少人数の良さかなと思う。</p>
委員	<p>まち協の方に、西谷への移住を考えているというような相談がもうすでに入っている。</p>

副委員長	<p>一番は子どもさん。学校見学とかされて、子どもさん自身が「西谷がいいな」と思ってくれば具体的に移住の案内、空き家の紹介となっていくと思う。</p> <p>去年あたりから移住の方の要望が変わってきている。以前は、田舎に住みたい年配の方、終の棲家にしたいという方が多かった。今年に入っての要望は子どもさん連れである。学校の対応が忙しくなるかもしれないが、そういう要望が、増えてきているということをお聞き、認識していただけたらと思う。</p> <p>先ほどのお話にもあったように、子どもたちが「学校が楽しい」と言ってくれるのが地域としても最高の喜びである。以前に大津市の小規模特認校である葛川小・中学校に視察に行った際も、若い世代が学校も含めて、移住を検討する流れがすごくできていると聞いた。こういう形で、地域の方も総力を挙げて協力し、「学校が面白い」ということで子どもたちや保護者が引きつけられて、ここに住んで一緒に暮らし、一緒に学ぼうという機運をつくっていければと思う。地域ボランティアコーディネーターとして地域と学校をつなぐ役であるため、ぜひ皆さんのいろいろなアイデア等、力をお貸しいただければと思う。</p>
委員長	<p>一旦、報告事項をこれで終え、本日の議題の方に移らせていただく。 事務局の方からご説明をお願いします。</p>
事務局	<p>5 議題</p> <p>(1) 特認校制度先進事例視察結果と西谷地区における今後の方向性について</p> <p>7ページ、資料5</p> <p>1 特認校制度先進事例視察結果について</p> <p>今回新しく委員になられた方もおられるため、先進校視察の件について、簡単に説明させていただきます。</p> <p>西谷小・中学校では、昨年度、宝塚市内のどこからでも就学できる特認校制度を導入し、令和7年度に2名の方が西谷地区外から入学された。</p> <p>特認校制度の先進事例の視察として、今年2月に、西谷小・中学校の運営協議会の一部メンバーと、教育委員会の職員とで姫路市立苅野小学校に行っていた。苅野小学校は令和5年度に特認校制度を導入し、初年度に22名の方が校区外から入学され、その後も入学者が多い。また、学校規模や立地状況、最寄駅が遠いといった交通事情等も、西谷小・中学校に似ていることから視察先に選んだ。</p> <p>前回の検討委員会において「次回の検討委員会に向けて苅野小学校の特認生が増えた要因や、定着している要因について整理し、西谷小・中学校でどう生かしていくのかを考察する」となった。</p> <p>苅野小学校が特認生について特に細かい分析をしているわけではないとのことで、視察時に校長先生から伺った内容や、後から追加で聞き取った内容を資料7(非公開)にまとめている。</p> <p>～資料に沿って説明～</p>

2 西谷地区における今後の方向性について

以上、苜野小学校の取組を踏まえて、1学級当たり15人くらいの規模を維持した小規模の学校を西谷小・中学校でも目指していくのか、もしくはそれ以上の規模を目指していくのか、ご意見をいただければと思う。積極的に人数を増やしていくとなると、苜野小学校のような、少人数だから学校に通えているという子どもたちのニーズに合致しなくなる。今後、どれほどの方が入学されるか現時点ではわからないところではあるが、皆様のご意見を聞かせていただけたらと思う。

委員長

15人というのは、1学年か、複式か。

事務局

複式単式問わず、1学級当たり15人程度、ということである。

副委員長

人数の希望について今の段階ではっきり何人までというのは難しいだろう。

先ほどの説明、1・2年生の複式学級はMAX8人という縛りがあった。これだと次年度見込は1・2年生でぎりぎり7人である。だからこの先、1人2人入ること複式か単式か、いつも右往左往しないといけないような状況になる。学校運営上、非常に先生たちにご負担をかけてしまうのではないか。

委員

今言われた内容は、小学校としてもしっかりと考えないといけないことである。

現在は完全複式で、2学年が同じ教室で、教員は1人で算数の授業をしている。右側6年生、左側5年生というような形。教科書はそれぞれの学年のもので、両方で授業が展開されている。そうすると十分に先生の指導が行き渡らないのではないかというのを解消するために、ガイド学習というものを行っている。子どもが司会をし、プレ先生みたいな感じでやっていく。子どもたちが全員発言をしないといけない環境にあり、自分たちで授業を組み立てていくので、とても良いと思っている。

ただし、1・2年生にそれは難しい。数字を習い始める学年と、掛け算を習う学年。やはりそこには大きな差があるので、1・2年生の算数は別々の教室で行っている。また国語も別々の教室で行っている。他の学年においても、教科によっては別の教室で担任ではない先生が行っているので、中学校に上がったときの教科担任制に対し、ここの子どもたちは慣れていて、中1ギャップが多分ないだろうという良さがある。

そういうところでいくと、どの学年も、複式でも単級になっても、人数はそんなにたくさんいないというのが理想かなとは思っている。

教科によっては2学年の分をミックスして2で割ったカリキュラムで進めているが、子どもたちはそういうことに柔軟に対応できる。また、人数が増えて、例えば1・2年生が単級になっても、国語や算数は別々にしっかりとやり、でも一緒にやる教科もあっていい、というようにやっていけばいいのかなと思っている。

私が言うことで、皆さんにバイアスがかかって「こうしなくてはいけない」と思われては困るが、学校としては、40人学級ぎりぎりいっぱいになるまで入れようではなく、少人数がこの良さなので、それを生かすことを念頭に置いた上で、学級編制を考えていくことが大事かなと思っている。

委員	<p>今年は1年生を含む複式がちょうどMAXの8人である。先ほどあった移住の話だが、もし1年生が1人でも増えたら、ただちに複式が解消されて、1・2年生がそれぞれ単式になるのか。</p>
委員	<p>現在は始業式時の人数で、学級数が決まるので、年度途中で児童が増えても、今年度いっぱい複式が続く。</p> <p>そして、先ほど申し上げたように、例えば1・2年生が単式になっても、3年生に上がったときにまた複式になったりするので、単式となる場合も、例えば、図工や音楽や体育、人数が多い方がいろいろな音が出せるとかということだったら、そこは一緒にやったらいいと思う。そういうのは他校ではできないことなので、それも特色にしたらいいかなど思っている。</p>
委員長	<p>定員の件は非常に大きな課題であると思うが、今説明いただいて、その場その場の状況を把握しながら、柔軟性も持って対応していただけるというように理解した。</p> <p>せっかく西谷で学びたいと思っている方がおられたら、それを受け入れてあげたいというのが皆さんの思いではないかなと思うので、受け入れていただけたら嬉しい。</p>
事務局	<p>それでは、2番目の方のスケジュール案について事務局より説明をお願いします。</p> <p>(2)令和8年度募集スケジュール(案)</p> <p>8ページ、資料6</p> <p>～資料に沿って説明～</p> <p>7月下旬から8月上旬の第10回西谷地区学校づくり検討委員会において、募集要項等の報告、12月に第11回で応募状況の報告、2月下旬から3月上旬に、第12回で最終的に入学者が何人になるかの報告をさせていただこうと考えている。</p> <p>公開学校行事について、このたび新たに「24谷(にしたに)の日」として、校区外から西谷小・中学校に見学しに来た子たちが授業に参加できる日ということで、学校が設けてくださっている。</p>
委員	<p>今年(昨年の募集)は、1年生とその兄姉というように制限させていただいた。全学年いけるのではないかという意見をお持ちの方もいらっしゃったかもしれないが、今年度初めて完全複式となり、なかなかのボリュームである。完全複式にフルタイムの加配が1人ついていますが、実にいろいろな学年を飛び回っている。幸いにも、病気等で休む職員がいないため、うまくいっているが、そうでないと厳しい。今年度は完全複式を定着させる年としたが、1年経てば、今年度の反省を含めて軌道に乗せていけるかなと思っている。</p> <p>中学校と相談し、毎月24日を「24谷の日」にして、土日祝日にかかったときは翌日にするとした。いつでも所かまわずとなると対応がしにくいためである。ただ、どうしても24日がダメで違う日にと言われたら、受けることはしていく。別の日にちでも、もし子どもが授業に入れるのなら入れるよう、常時机を2つずつぐらいそれぞれの教室に足している。座るだけでも全然姿勢が違うし、目線が違うので。職員にもそうするように伝えて</p>

	<p>いる。やはり、大人の思いだけでなく、子どもが行ってもいいなと思ってこそ長続きするのかなと思っているので、そのような対応をしていきたい。</p>
委員長	<p>いろいろときめ細かく対応いただけると説明いただいた。何か質問等あるか。</p>
委員	<p>10月1日に新小学1年生に通知に同封とあるが、新中学1年生への案内はどうか。</p>
事務局	<p>新中学1年生は現6年生であるので、③の在校生に対しての配信がそれに当たる。新小学1年生(未就学児)にはメール配信ができないため、就学時健康診断通知にチラシを同封する流れになる。</p>
委員	<p>「24谷の日」に行きたければ、校長先生に連絡すればよいのか。</p>
委員	<p>連絡をあらかじめいただければと思うが、ふらっと来られる方もいるかもしれない。初回の6月24日はちょうどオープンスクールである。今度、駐在さんに来てもらって、不審者の対応を職員が学ぶことになっているので、そういったことも生かしていきたい。ふれあい運動会を見に来たいという連絡も1件受けている。</p>
委員長	<p>24谷の日という素晴らしい日を作っていただいた。PR等ぜひ可能な方はご協力をお願いしたい。</p>
副委員長	<p>Instagramの件、動いていただいて感謝する。可能であれば市のホームページや教育委員会のページに小規模特認校についてバナーを作るなど、ワードで検索しなくても1ページ目からアクセスできるようにならないか。</p>
事務局	<p>ホームページの発信方法については学校と相談して検討していく。</p>
委員長	<p>(3)その他 他に何かあるか。</p>
副委員長	<p>募集チラシのキャッチフレーズに「少人数のきめ細かな教育をお探しの方」とあり、これだと先生が手厚くやってあげますよというイメージになってしまったのかもしれない。今年度の募集には、子ども同士の相互作用とか、学校が面白いと思うとか、そういった言葉を使うのはどうか。</p>
委員	<p>先ほどから時々Instagramという言葉が出ているが、SNSに関しての進捗を説明いただきたい。先日、写真掲載についての承諾書が保護者に配布されて提出はしたが、その後どうなのか。</p>
事務局	<p>公式アカウントということで、運用規程や利用規約について精査しているところであ</p>

	<p>る。公式となるとしっかり決めていかななくてはならないところがあり、少し時間がかかっている。6月にイベントが多いので急ぎたい。</p>
<p>委員長</p>	<p>【6 閉会】</p> <p>いろいろ課題があるかと思うが、よろしく願います。部長にも一言お願いしたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>Instagramも含めいろいろな形でこの制度をお知らせすることが大切であると思う。何気ない皆さんのご意見にいろいろな可能性を感じた。</p> <p>今日聞かせていただいたご意見を持ち帰り、どんなことが実現できるのか検討していく。こうしたことを継続していくことが、西谷地区の維持・発展につながっていくと思う。</p> <p>先ほどあったように少人数の良さを大切にしつつも、目指すところは少人数ではないといったところは、しっかりと皆さん方と確認が必要と思う。目指すところの学校像というのは、活気のある学校。将来的には、もっともっと活性化される学校というものをイメージしながら取り組んでいかなければならないと思う。かつて、実際にも多くの活気があった、南部地域からも多くの方が西谷に来て多くの思い出を作ってきた。そうした西谷になるように、教育委員会だけでなく、市全体で取り組んでいくべき課題と思うので、その視点も踏まえて、この会が活性化されればと思う。今後とも皆様方のご協力を賜りますようお願いする。ありがとうございました。</p>
<p>委員長</p>	<p>心強い言葉をいただいた。地域が一丸となり、また行政・学校と三者一体となって進めていく必要があるので、皆さんのご協力をお願いする。</p> <p>これで閉会とさせていただきます。ありがとうございました。</p>